

令和 8 (2026) 年 1 月 28 日

各高等学校長 殿  
各中等教育学校長 殿  
各社会科（地歴・公民科）主任 殿

神奈川県高等学校教科研究会  
会長 岡野 正之  
(神奈川県立相模原中等教育学校長)  
同 社会科部会  
部会長 藤元 貴嗣  
(神奈川県立川和高等学校長)  
理事長 高橋 俊介  
同 歴史分科会  
分科会長 神田 基成  
(公印省略)

### 神奈川県高等学校社会科部会歴史分科会発表会及び講演会の開催について（依頼）

厳寒の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より社会科部会歴史分科会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記の件について、次のとおり開催しますので、貴校職員の出張につきまして、ご配慮くださいますようお願い申し上げます。

- 主 催 神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会
- 共 催 神奈川県教育委員会
- 日 時 令和 8 (2026) 年 3 月 4 日（水） 10時00分から（受付は9時30分から）
- 会 場 神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）映像ホール（5階）  
住所 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1  
電話 045-896-2121（代表）  
交通 JR根岸線「本郷台駅」より徒歩 3 分
- 内 容 ①研究発表及び協議  
・日本史「偶然の発見（セレンディピティ）追求型フィールドワーク実践」  
日戸 勇希（神奈川県立秦野曾屋高等学校）  
・世界史「試行錯誤の世界史探究 ～知識“再構成”型ジグソー法の挑戦～」  
朝倉 由真（神奈川県立伊勢原高等学校）  
・神奈川県教育局指導部高校教育課指導主事による講評  
②講演会  
「ロシア市民の目からみたウクライナ戦争とソ連市民の目からみたシベリア抑留」  
講師 小林 昭菜（関東学院大学法学部准教授）

#### 【講師紹介】

法政大学大学院政治学研究科政治学専攻博士後期課程修了。多摩大学准教授などを経て、現在は関東学院大学法学部准教授。専門は、戦後の日ソ関係、冷戦とシベリア抑留問題、ウクライナ戦争。主な著書・論文は『シベリア抑留—米ソ関係の中での変容』（岩波書店、2018年）、「ロシアからみたウクライナ問題」（『アジア・アフリカ研究』62(4)、2022年）、共著に『国際関係史から世界史へ』（ミネルヴァ書房、2020年）、『ロシア極東・シベリアを知るための70章』（明石書店、2024年）など。

6 時 程	9:30 ~ 9:50	受付
	10:00 ~ 10:10	開会の言葉・分科会長挨拶
	10:10 ~ 12:30	研究発表及び協議
	12:30 ~ 12:45	講評（神奈川県教育局指導部高校教育課指導主事）
		休憩
	13:45 ~ 14:00	広報・事務連絡
	14:00 ~ 16:30	講演会
	16:30 ~ 17:00	閉会・諸連絡

7 その他 旅費につきましては、まことに恐縮でございますが、貴校にて負担くださいますようお願いいたします。

問合せ先

社会科部会歴史分科会事務局

鎌倉学園中学校・高校 神田

電話 0467-22-0994

メール [motoshigekanda@kamagaku.ac.jp](mailto:motoshigekanda@kamagaku.ac.jp)

[rekishibunka.kanagawa@gmail.com](mailto:rekishibunka.kanagawa@gmail.com)

#### 高校教員の研究発表について

○日本史「偶然の発見（セレンディピティ）追求型フィールドワーク実践」

日戸 勇希（日本史研究推進委員会）

事前学習を行わず、現場での発見や疑問を出発点とする「セレンディピティ追求型フィールドワーク」の実践報告です。津久井城跡と曾屋神社での事例を比較し、予備知識にとらわれない観察がもたらす独自の学習効果と、歴史探究における意義について論じます。

○世界史「試行錯誤の世界史探究 ～知識“再構成”型ジグソー法の挑戦～」

朝倉 由真（世界史研究推進委員会）

探究活動という学びのスタイルは、学力上位校でないと成立し難いのではないか、という自身の疑問に向き合い、また、技能として生徒に定着する世界史授業とは何か、を模索した実践例となります。

(別添)

## 神奈川県高等学校社会科部会歴史分科会の講演会について

演題「ロシア市民の目からみたウクライナ戦争とソ連市民の目からみたシベリア抑留」

講師 小林 昭菜（関東学院大学法学部准教授）

### 【講師紹介】

法政大学大学院政治学研究科政治学専攻博士後期課程修了。多摩大学准教授などを経て、現在は関東学院大学法学部准教授。専門は、戦後の日ソ関係、冷戦とシベリア抑留問題、ウクライナ戦争。主な著書・論文は『シベリア抑留—米ソ関係の中での変容』（岩波書店、2018年）、「ロシアからみたウクライナ問題」（『アジア・アフリカ研究』62(4)、2022年）、共著に『国際関係史から世界史へ』（ミネルヴァ書房、2020年）、『ロシア極東・シベリアを知るための70章』（明石書店、2024年）など。

### 【講師の小林昭菜先生からのメッセージ】

本講義はテーマを第1部と第2部でわけて、時間の許すかぎりロシアについてお話ししたいと思います。第1部はウクライナ戦争です。この戦争はロシアでどのように受け止められているのか、プーチン支持の高さは本当のことなのか、気になっている方も多いのではないのでしょうか。戦争がはじまってどんなことを見聞きしてきたかを中心に、ロシアの社会がいまどうなっているか、お話ししたいと思います。第2部はシベリア抑留です。2026年は、シベリア抑留者の祖国帰還開始80年、日ソ国交回復70年の節目に当たります。第2部は、日本近代史と関係の深いシベリア抑留について、ロシア側の視点からお話します。戦争が市民や市民生活に与える影響は、今なお甚大です。みなさんと一緒に戦争と戦後について考えていけたらと思います。